

コミュニティ・スクールは、一人一人の子どもが幸せな人生を歩んでいけるよう社会総がかりで子どもを育む取り組みです。



令和7年1月吉日

禾一小CS通信



No.2 校長 渡邊 正司

～禾生第一小学校コミュニティ・スクール(CS)の活動報告いたします！～

CS設置に向けた活動記録③ 第2回設置推進委員会

令和6年12月5日に、第2回学校運営協議会設置推進委員会を開催いたしました。委員14名（欠席者除く）と教員8名が集まり、「子どもたちに取り入れたい禾生と盛里の魅力（資源）」と「その資源をどう活用すれば目指す子ども像を育むことができるか」というテーマで熟議をおこないました。

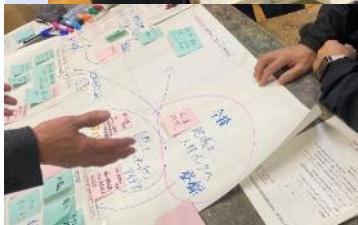
熟議で出た、「子どもたちに取り入れたい地域の魅力」

九鬼山、水、朝日川、農業体験、挨拶運動、つる食堂、ふらっと食堂、地域の人（会話）、大学、文化展、避難訓練、河川清掃、つるラボ、自然体験（虫取り・宝の山・ムササビ等）、地域の芸能、お祭り、神社、おばあさんの漬物、駄菓子、道の駅つる、富士急行線、リニア、鎌倉とのつながり（護良親王、雛鶴姫）、落合水路橋（めがね橋） etc.

★方法：人材バンク作成、地域を巻き込んで交流、子どもが自ら創ることで力を育む、自然の中で

初めての熟議になりましたが、様々な立場にある、地域の方々、PTA、学校評議員、教職員等で、相互に交流が深まり、賑やかな雰囲気で、活発な意見交換がなされました。終了後には、「地域に存在する資源（ヒト、コト、モノ）を発掘し、活用することで、子どもたちの成長を地域で支えるとともに、子どもたちに地域の誇りを感じてもらえるイメージが湧いてきました」「先生方も入っていたことで親近感が増し、良い意見対話になった」、教職員からは「禾生・盛里地域の魅力を自然的、歴史的、文化的など様々な側面から改めて見直すことができました」「知らないことがたくさんあり、このような話し合いの積み重ねがコミュニティスクールを組織し、運営していく上で本当に大切であることを実感しました」といった感想が出されました。

『地域とともにある学校づくり』『学校を核とした地域づくり』を推し進めていけるよう、今後も地域・学校・家庭で触れ合いや対話を重ねていきましょう。



裏面もご覧ください

学校長が思い描く、禾生第一小コミュニティ・スクール



禾生第一小学校
校長 渡邊 正司

1 ◆ CS を導入しようと思った理由

今の社会において、子どもたちのより良い成長を考えたときに、やはり普段関わっている地域の方の力を借りながら、地域と学校が連携協働して、子どもたちをより良い方向に導いていく必要があると考えました。

2 ◆ 子どもたちに期待していること

子どもたちは、学校の先生方だけではなく、地域の人から学ぶことがあって、今も「放課後子ども教室」などで関わってもらっています。これからも、学校だけではなく協働のまちづくり推進会等の方々の力も借りながら、地域と一緒にになって、子どもたちの指導に当たっていきたい。その中で、子どもたちにはいろんな人に出会って、いろんなことを吸収して成長してもらいたい。最終的には、禾生・盛里という地域への愛着や誇りが、生きる上のベース、糧になればと願っています。

3 ◆ 地域の方々に期待していること

学校に積極的に入ってきてほしいと思っています。そして、我々教職員も同じように地域に積極的に出ていく。垣根を低くして、関係性を作っていくことが重要だと感じています。防災や防犯は特に、地域と学校が一体となってやっていく必要があります。お互いに顔が見れて、知っていて、何かあったときに助け合える。防犯対策をしたうえで、学校を閉めるのではなく外に開き、地域と学校の協働によって道を切り拓いていけたらと思います。

5 ◆ 地域の方々へメッセージ

学校運営協議会設置推進委員会を2回行いましたが、子どもたちのために、地域と学校とで集まって、楽しそうに話し合っている姿を見て、とてもうれしく思いました。こうした取り組みの積み重ねによって、子どもたちを中心とした地域づくりにつながっていくことを願っています。故郷を愛する子どもたちを、共に育んでいきましょう。

コミュニティ・スクール(CS)とは、学校・保護者・地域住民で構成する「学校運営協議会」を設置した学校のことで、「地域とともにある学校づくり」の実現に向け、学校目標やそれぞれの課題、地域資源等を共有し合い、学校・地域が一体となって、特色ある学校づくりや子供の学びや成長を支えていく仕組みです。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(第47条の5)が平成16年の改正によって制度化され、令和6年5月時点で全国の小・中・義務教育学校の65.3%が導入に至っています。